

イモの重要性を再認識

おふくろの味に舌鼓

イモっ娘 フォーラム 講話や余興も楽しむ

留萌管内九市町村の女性を通じてジャガイモの重要性を再認識した。

性団体が構成する留萌地域城エンバワメント協議会（村山ゆかり会長）主催の「いもっ娘フォーラム」が、十七日午前十一時から留萌中央公民館小ホールで開かれた。今回は「昔味」をテーマにしたフォーラムで、約五十人の女性がジャガイモ料理の実習や講演など

実習が行われ、十クループに分かれた女性たちは各テーブルで「イモすりもち」に挑戦。ゆでたイモを冷ましながら、すりこぎですりつぶした。村山会長が「今日のイベントを機におふくろの味を守っていきたい」、来賓の西田俊夫留萌支庁長が「このフォーラムがお

ふくろの味復活のきっかけになればいい」とあいさつ。イモすりもちに加え、主催者側が地元産の食材で作った「イモすり団子汁」「イモご飯」などを打った。イモ料理に懐かしさを感じたり、イモが主食だった当時を思い出しながら味わっていた。

午後からは北海道大学准教授で、るもいコホートリア推進機構メンバーの多田光宏さんが「見た目の、長生きの、脳をまもる」をテーマに講話。カロリーが高く、腹持ちがいい反面、血糖値が上がるジャガイモの特性を挙げながら、どのように食べれば健康につながるかをアドバイス。余興のステージショーは、女性団体の有志が民謡や舞踊を披露した。



「イモすりもち」に挑戦する女性たち